

『投資家と企業の高質な対話』のためには

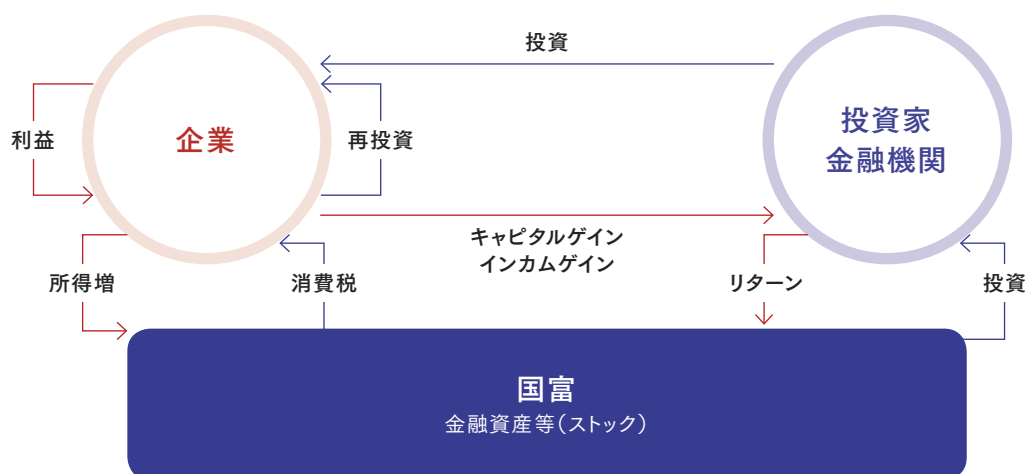
# ESGパーセプション・ スタディ(マテリアリティ)・ サービス

先の「日本再興戦略」改訂2015では、日本企業自身による持続的成長、中長期的な企業価値向上の取り組みを促す方策が掲げられ、そのような価値創造に対して長期的な投資を促すための「インベストメント・チェーン(投資収益を最終的に家計まで還元する一連の流れ)」の強化に、再び触れられています。

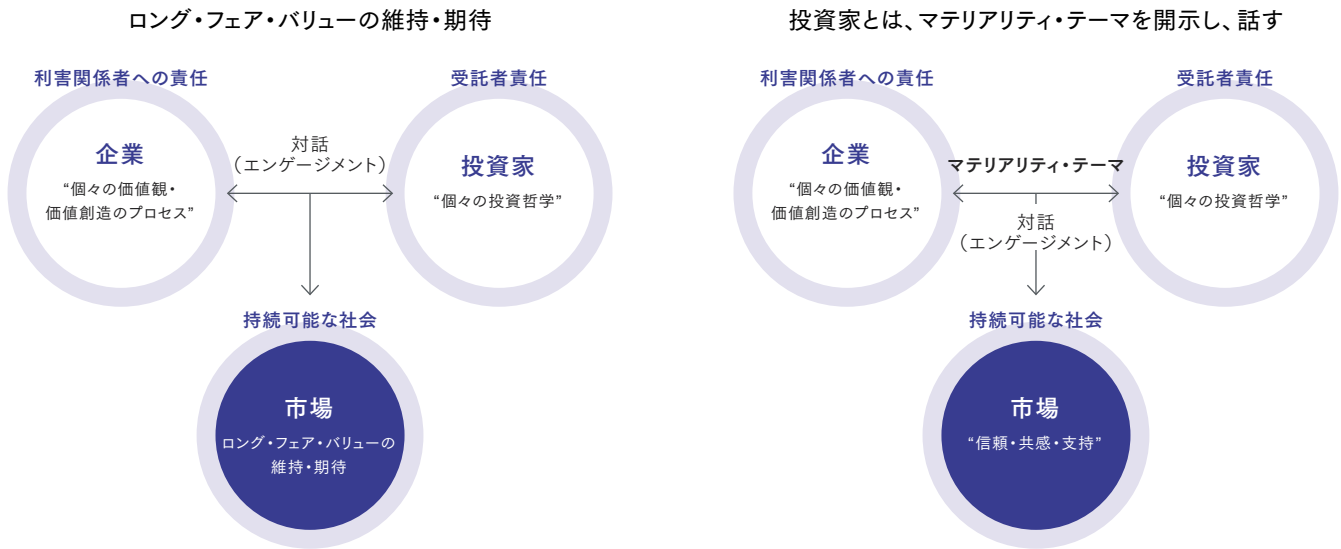
このような価値創造の好循環を実現するためには、その主役となる企業とリスクマネーの出し手である投資家が、質の高い対話を通じて相互理解を深め、共に持続的成長、中長期的な企業価値創造に向かうことが不可欠とも触れられています。

折しも、2015年9月、ニューヨークの国連サミット全体会合の演説で、日本は、GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)がPRI(責任投資原則)に署名をしたことを表明しました。世界最大のアセットオーナーであるGPIFがESG投資を明言したことで、国内のアセットマネジャー(運用会社)にも衝撃が走り、変革・競争が起きようとしています。

この機会に、投資家と企業の高質な対話の糸口に、当社の新しいサービスのご採用をお考えください。



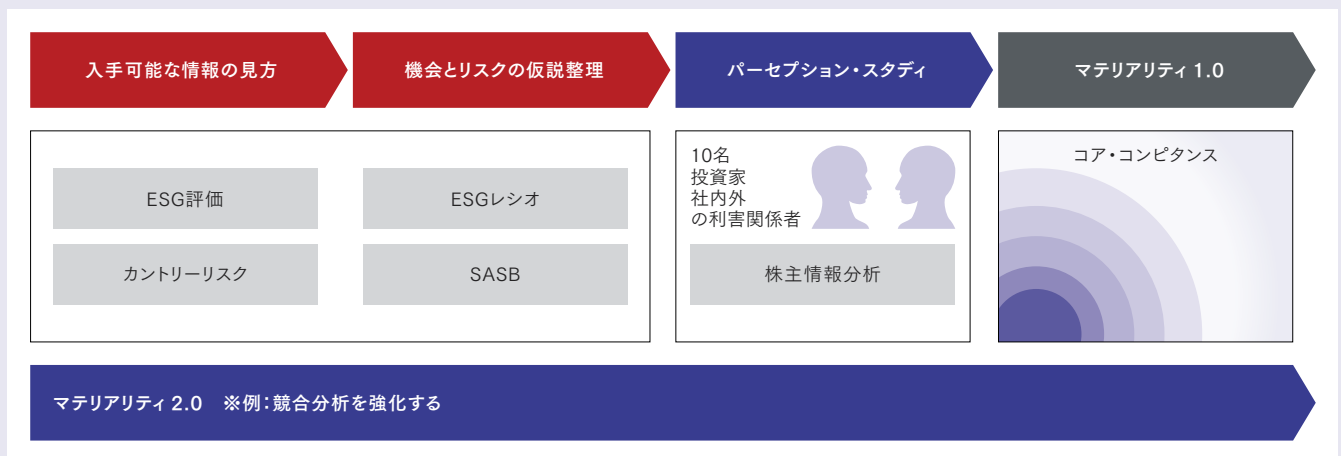
持続的な企業価値につながる企業開示と対話・エンゲージメントへの実質的な変換に向かうためには、企業と投資家間は、ロング・フェア・バリューの維持・期待を起点とし、投資家とは、企業が自ら、マテリアリティ・テーマを開示し、対話することが重要です(下記、図参照)。



## ESGパーセプション・スタディ (マテリアリティ)・サービス

当社サービスの長は、投資家と企業の高質な対話の糸口になる、重要なESG情報の抽出や、その情報を元に、利害関係者へのパーセプション・スタディを行うことで、自社のコア・コンピタンスを認識いただくためのものです。統合レポートはもちろんのこと、あらゆる資料への展開も可能だと思われます。また、レポート制作と同時期に実施していただく必要もありませんし、次年度のレビューとしても活用可能です(下記、図参照)。

### EDGE ESGパーセプション・スタディ (マテリアリティ)・サービス



※上記、参考図はフルパッケージでの一連の流れを説明したものです。  
 ※上記の各パーツの内容面での調整や費用面でのご相談は承っています。  
 ※想定される活用方法: 投資家との対話、統合レポート・CSRレポート、中期経営計画

※ご説明・お見積りは、下記までお申し付けください。

本件に関する問い合わせ先

株式会社エッジ・インターナショナル 当社営業担当、統合報告/ESG事業推進室

TEL: 03-3403-7750

E-MAIL: edge@edge-intl.co.jp